

小川持正著
女童教草
全

B

1

18



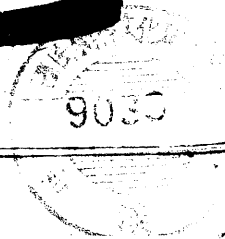
女童教草

全

K110.1
288

澄之觀

梅遲



深澤菱潭書

女童之草

小川持正著

權大教正三條西季知郷書

何子可

明如也

大満了

不徒安也
不徒安也

不徒安也
不徒安也

正二條季知

女音を草

養潭逸人書

申源を畏事

明方今皇國

乃河政事の事あつ
西へく宗元を遣。
上古能治の事銭
中昔

の事下り来
多くは弊を改め
て海外諸國の公
論也。下へ純

建白をきん。聞し。

めさう。能く。事。あ。世。ふ。

御國。我。富。尚。

ま。軍。の。備。を。強。

く。と。外。つ。出。の。

悔。ま。を。事。又。さ。る。根。

や。此。活。主。意。を。え。

上。の。上。の。事。下。

一和いつわ一いつ萬事ばんじ成なり
心こころ身み
道みち身み起おこるる由よし
先まづをを先まづ

有あるるはは女に子こ成なり理り
如ごとくく後ご行ぎやうりり安やすをを
己おのらら月つき日ひをを送おく理り
王わう氏しのの先まづ

伊弉諾伊弉册の二神
天つ所神の勅を
うき土然らみ

嶋成る久又神
をうき人をもて
萬事成はる
たみひら女

天照大神

親^{おや}子^こゆゑに^{ゆゑに}身^みを^をて。
かゝつて^{かゝつて}後^{のち}に^に筋^{すぢ}を^をて。
夫^をの^の血^ち統^{まぢ}を^を人^ま全^{つた}し
男^{おとこ}を^をし^しは^は者^{もの}家^け

國^{くに}を^を治^をる^るま^ま治^をる^るもの
おま^まを^をる^る人^{ひと}操^をを^を
以^{もつ}て^ても^もと^とを^を業^{わざ}。
神^{かみ}代^よを^をて^てる^る八^や子^ら

矛ほこの神かみの后きうさげに酒さけ
世理せり姫ひめ夫ひこぢに神かみの
功業こうごうを助たすりたる
らんりんと後ごよるま。

清身せいみもる古ふるもる子こ
慎しんみそ我あもるもよ
女め子こあはれもる汝な
を措さて男おとこもるか。

五ノ一ノ

七

汝を措く妻の如
き歌ひたすべし

故事もあり。銅女の

命は天孫の地球（地球の命）

降臨する時

天つ御祖の勅を

以て汝をたすめ

なれどもいむふ

神と申す神
形如水て。御供の
神り加事て功
多き女神也又

皇孫瓊杵尊
其の皇后木花
之佐久夜姫
孝貞の道也

くたひし。満
事ある時ふ。詔を
て。なを。く。まけ
ま。御。事。蹟。以。ま。ふ

傳へく。あ。ま。も。也。
又。人。皇。の。み。ま。け。め。
神。武。天。皇。の。皇。后。
冬。伊。須。氣。余。理。

Y. 1000 1000

+

姫の尊やそ。戸ノ操
正しく政道に助
そらそをむれり。
其後神功皇后

中哀天白山嗣治
の及御姫姫
みしりれり好
機合をそけり

と新羅百濟高
麗越御之殿の
所征討皇國は
威をの外は志あり

春毎ひし御大
安事是御事
何事是御事

賤しづの女にやらずで總すべて皇み
國くに能よくし一ひと身み才た
智ち者もの及およびのいはまし海うみ
是こゝはこゝ人ひと操あそぶま

一ひと心こゝろにま誠まことより
萬よろづの道みちをた備そなへ
て武ぶをたねあらはむ
男おとこもたまに礼れい

事實あるをじ。
近き昔に流るる
を遊墮り耽理
おのづから父母の

をいへんゆゑ
あり身乃つし
能親類人ら
よ記をきくこと

以て可^た技藝^{ぎぎ}あり
名^なは只^{ただ}風流^{ふうりゅう}不^ふ
本^{ほん}の程^{ほど}は身^み操^{さう}
西^{にし}からさるる也^{なり}

いかにある也^{なり}起^{おこ}
事^{こと}は多^{おほ}く中^{ちゆう}古^こ
才^{さい}女^{にょ}に聞^き之^のあり
紫^{むらさ}式^{しき}部^ぶのと云^い矣^{なり}

歌りお孝の也。
人の子人愛の事
ら先子法ら身
を如松らひ去ら

習まは人は女悔
る如る自ら方
を慎る事先
を戒先人の事

身みををええままくくつつ者
事ことちちのの禮れいととおおももふ
古ふるののをを速はやくく全ぜんる
也なり熱あつくくももたたかかららぬ

そそのの部ぶししにに思おもふ
女をのの帯おびををれれば
其そのままつつししにに思おもふ
心こころ廣ひろくくおおほほまますす

女 華 抄
女 志 乃 夫 亦 契 可 此
外 國 乃 婦 人 亦 有
孝 子 者 人 亦 有 之
有 家 禮 者 亦 有 之

此 方 之 女 亦 有 之 也
一 切 之 儀 亦 有 之
亦 有 之 也 近 之 親 也
亦 有 之 也 亦 有 之 也

笑ひ半じり事ハ
取らぬ急き
も能く能く
心を用おつて

父母より能く
兄姉姉妹を
志すべし
能く親のゆ

世の夫ははるる
をやるわ妹姉を
郎くは笑つて今
生業をやるも

たまたまお目つふ
僕婢をよく恵
舅姑大切り家内
の締ゆるんなく

常つね々也や。事こと。
女をんな。武たけ。和なごみ。

何なに。失うしな。親おや。
親おや。親おや。親おや。

もたふをまじい飛を
母の寸不寸それ
子やしんあんの
ゆるふ子を教ふ

つまはなれ道の子
るなをたまま時あ
えらなれふとあ
学ふべしれ

顔26也かきとら子27

つゝ28の29理30

浮31舟32男33子34な35る36

さ37あ38子39や40な41あ42梨43

け44て45父46母47の48え49ら50ち51

を52え53ん54の55り56見57え58る59

身60越61し62た63ら64り65

も66ち67あ68ら69る70人71さ72る73

可飛、とあるは
ありみづあまを
と起ふはみきを
たのほのをきし草。

文明開化の御代の
徳も是れ無き
る不修ふ也。そ花
たはし舞をえたり。

心を養ふく玉解
乃道の基えを待
たふ身

小川持正のふ

官許

書學教館藏



發兌書林 鈴木喜右衛門